

20. 子ども・いきいき・サタデースクール

～子どもの居場所づくり～

グループ名 子ども・いきいき・ならネットワーク委員会

代表者 松本 光司

(1) 活動の目的

平成14年4月から土曜日を休みとする「完全学校週5日制」が始まり、ゆとりの中で子どもたち一人ひとりに「生きる力」を育む教育へと転換が進められました。これからは、子どもたちは学校以外で過ごす時間が増え、地域社会や家庭での教育機能がますます重要になってきます。

そこで、この趣旨に賛同する地域の大人、地域の関係諸団体（保護司会、更生保護女性会、民生児童委員会、主任児童委員、少年指導協議会、PTA、退職教員）有志で「子ども・いきいき・ならネットワーク委員会」を組織し、子どもたちの土曜日の居場所として「子ども・いきいき・サタデースクール」を開設しました。

活動内容としては今の子どもに欠けている「情動体験」「学び」「遊び」、そして地域課題の「安全・安心」の問題を中心に取り組みました。また、指導にあたってはそれぞれのシニアが自己の得意分野を通じて子どもたちに接することにしました。

(2) 活動にあたって

まず活動にあたって奈良市教育委員会の後援をいただき、奈良市西部公民館学園大和分館で毎週土曜日に行いました。突発的な事故に備え関係機関（医療機関、警察署、消防署）の協力も取り付け「子どもの安全」を第1とし、「子どものところに灯をともしこと」を指導の基本としました。

(3) 活動の概要

情動体験（主な活動例）

子どもの日「お祝い遠足」ミステリーウォーキング

目的地を伏せ、ミステリーとすることで、子どもたちの好奇心を掻き立てながらの遠足。出発点では長い棒を呪文を唱えながら倒し、倒れた方角へ進むという趣向です。方位磁針も持たずに子ども同士で知恵を出し合って、懸命に歩くこと2時間、目的地に到着した時には一同から大きな歓声が上がりました。父母の参加も多く、親子のふれあいの時間をもつことができたと共に、日常歩く機会の減った子どもたちにとって歩き通せた達成感は大きな自信につながったことと思います。

バリアフリー教室（思いやる介助学ぶ）

子どもたちとの話し合いの中で、視覚に障害を受けている子どもたちの学校生活について尋ねられたので、「筑波大学付属支援学校の日」というビデオを視聴することにしました。そこには、視力に障害を受けているにも拘らず障害を克服するために学ぶ同年齢の子どもたちの姿があり、それを見た子どもたちの発したことは

「すごいな！」の感動。そこからバリアフリーの意義と理念を身に付けることができました。

高齢者との夏祭り

子どもたちと地域にある高齢者施設の在住者と力を合わせて夏祭り（盆踊り）を行う。この何物にも代えがたい交流体験から子どもたちは多くのことを学びます。

親子ふれあい思いデーキャンプ

夏休みの一日、4歳から76歳まで世代を超えた交流の場となりました。野外炊飯は初めてという子どもが大半で、全員の力で炊き上がったときには大きな拍手が起きました。親子が自然の中で共通の生活体験を持つことでより良い関係が形成され、また、集団行動を通して協調性や思いやりの心を培うことができました。

敬老ふれあいグラウンドゴルフ

敬老の日、地域の高齢者とグラウンドゴルフの交流。グラウンドゴルフのメンバーの方々からは「地域の世代を超えた絆が深まり、子どもたちは本当にいきいきと表情を輝かせてくれた」と喜んでいただきました。

子どもの森に「自分の木」を！

野鳥の集まる楽園をつくろうと、地域に隣接する県立「子どもの森」に子ども一人ずつ自分の木を植えています。木には「抱負」を書いて吊します。家族に見守られ木を植えた感動はいつ迄も子どもの心に残り、地域の未来に受け継がれていきます。年月を経て大きく成長した



「自分の木」への家族揃っての「再会ハイキング」も計画しています。

学びと趣味を増やす活動

学習クリニック

学力格差の問題が起きていますが、これは学習のつまずきの見過ごしからです。子ども一人ひとりに寄り添い、その原因を子どもと共に考え、克服することでつまずきを解消することができます。「わかる喜び」は「成就感、達成感」を生み、「内発的意欲・自信」に結びつきます。

自分の興味を伸ばす学習

学校でもない塾でもない「第3の学びの場」を創出しようとなりました。土曜日には自分の課題を持って集まり、仲間同士の支え合いで学習に励みます。指導する大人は子どもの発想に共感します。この共感が子どもの大きな喜びと意欲につながっていきます。この日は、子どもたちの「学びの熱気」が会場にあふれます。

趣味を増やす活動

「囲碁」を取り入れています。囲碁は、総合判断力、推理能力、記憶力、応用能力、苦況打開能力などいろいろな能力が培われます。また、自分が不利なときも態度に出さず礼儀正しく終始しなければなりません。このような勝れたゲームを子どもたちに触れさせようと意図し計画しました。

遊 び

遊びの不足は仲間意識の欠如、社会的成熟を阻害します。哲学者 ロバート フルガムの著書「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の通り、人間、どう生きるか、どのようにふるまうかなど本当に知っていなければならないことは遊びで教わります。私たちの町の公園では「集団あそび」「昔あそび」に興ずる子どもたちの姿に出会うことができます。

安全・安心の問題

子どもを犯罪被害から守る活動

平成16年11月、隣接地域で小学校1年生女児誘拐殺人事件が発生しました。私たちは平成14年、サタデースクール発足当時から子どもの視点に立った安全指導に取り組んできましたが、それを推進し子どもに危険回避の力をつける「子どもの安全プログラム」を完成しました。

地域安全マップづくり 安全マップで親子ウォーキング 路上ロールプレイ
子ども110番の家クイズラリー 通学路安全マップづくり 子ども110番の家避難通報訓練
不審者撃退ロールプレイ 奈良県警「いかのおすし一人前ダンス」振り付けコンクール応募(入賞) “社会を明るくする作文”発表会
「私たちのまちのお巡りさん」作文発表会

「自助」、「共助」の力をつける防災活動

旧態依然としたこれ迄の防災活動を見直し、「考える力が身につく防災活動」を提案しようとなりました。従来の活動は行政が導いてくれることが前提に訓練が展開されているといっても過言ではありません。それを自分の目で状況を判断し、自分の命、近隣の命を守るために行動できる力「自助力」「共助力」をつけるように転換し、最後に各自の成果として「わ



が家の防災ハンドブック」に仕上げるという趣向です。子どもたちが工夫し、作成した「防災マップ」は『災害時お年寄りと連絡約束、あの子から安否確認』の見出しで朝日新聞に大きく報道されました。そして、本市の「地域防災マップづくり」に大きく弾みをつけました。さらに、民生委員制度創設90周年記念全国事例集に「災害時ひとりも見逃さない防災活動事例」として取り上げられ、「写真パネル」は奈良県社会福祉センターロビーに展示され防災啓発にも大きく貢献しました。

防災マップづくり 自力で避難できない人を誘って避難訓練 防災キャンプ(避難所生活体験) 防災ウォーキング 災害が起こったときにあなたが支援できること 防災倉庫探険 「わが家の防災対策」作文発表会

(4) おわりに

非行や犯罪が増加する背景には「社会規範の崩壊」があります。朝日新聞社が78年から続けている定期国民意識調査でも、「親子関係の崩壊」が背景にあり、犯罪を減らすには「モラルの向上」が有効だと報じています。

私たちは、このたび貴厚生事業団の「シニアボランティア活動助成」を得ることによって平成14年度より取り組んでまいりました地域での「子どもの居場所づくり」を確かなものにすることができました。そして、「親子の絆」「住民同士のふれあい」が“明るい社会”をつくる鍵だということを知っていただくことができました。

これからも、私たち地域シニアは現役時代に学んだ経験や知識を自分の得意分野を通して地域社会に貢献してまいりたく考えています。

(5) 現在までの活動経歴

- ・平成14年 4月 完全学校週5日制導入に伴い「子ども・いきいき・サタデースクール」開設。
- ・平成14年度法務省「子ども・いきいき・ネットワーク事業」パイロット事業に指定。
- ・平成15年10月「社会を明るくする運動」に協力で奈良保護観察所長感謝状。
- ・平成17・18年度文部科学省「地域子ども教室」推進事業に指定。
- ・平成17年 7月「青少年健全育成団体」で奈良県警察本部長表彰。
- ・平成18年 8月 子どもの居場所づくり推進研修で発表(奈良県社会教育センター)
- ・平成18年10月「社会を明るくする運動」推進で奈良県知事感謝状。
- ・平成19・20年度文部科学省「学びあい、支えあい」地域活性化推進事業に指定。
- ・平成20年 1月「子どもを犯罪被害から守る活動」で奈良県警察本部長表彰。
- ・平成20年 4月「社会福祉奉仕活動」実践で森田記念福祉財団理事長表彰。
- ・平成20年度法務省「子ども・いきいき・ネットワーク事業」パイロット事業に指定。
- ・平成20年10月「社会を明るくする運動」で近畿地方更生保護委員会委員長表彰。

(6) 決算報告

収 入	(単位：円)
大同生命厚生事業団助成金	100,000-
支 出	
謝 金(日赤講師・社明行事謝金)	13,000-
消 耗 品 費(文具・材料用具・教材)	22,460-
印 刷 製 本 費(コピー代)	11,630-
通 信 運 搬 費(切手代・メール便送料)	1,610-
借料及び損料(キャンプバス借上げ・施設利用料)	51,300-
(合 計)	(100,000-)

楓ちゃんに誓う安全

奈良で子どもを守る集会 歌唱や絵馬展示

平成十六年十一月、下校途中に誘拐され殺害された奈良市の市立富雄北小学校一年生、有山楓(かえで)ちゃん当時(二)を追悼し、子供たちの安全を願う集会(奈良西署主催)が十五日、同市富雄元町二丁目(二)のダイエー富雄店駐車場で開かれた。

地元小学生児童や地域の安全推進グループ、警察の関係者、同市の中尾勝二教育長ら約三百人の参加者は、悲劇が二度と起こらないよう誓いを新たにした。

集会では楓ちゃんの冥福を祈って全員で黙とう。子供たちの安全に取り組む地域グループらが表彰され、地元小学生が参加する子ども・いきいき・サタデースターのメンバーが地域の人々に感謝する作文を朗読。犯罪被害から身を守る約束事を織り込んだ歌「いかのおすし一人前」の歌唱とダンスを披露した。

また会場には、犯罪のない、明るい社会づくりの願いを込めた絵馬も展示。登下校時の見守りや青色防犯パトロールで表彰を受けた富雄三地区子どもの安

全を見守る会の西宮順代表(二)は「子供や地域の安心、安全のために、警察と協力し、さらに頑張ってもらいたい」と話していた。



犯罪被害防止のダンスを披露する児童15日、奈良市富雄元町のダイエー富雄店駐車場